

12月1日は世界エイズデー

2021年世界エイズデーキャンペーン

テーマ「レッドリボン30周年～Think Together Again～」

2021年は、岐阜市内外の中学、高校、大学、専門学校10校がレッドリボンフラッグ作成にご参加いただきました。それぞれの思いが込められたフラッグとメッセージをご紹介します。

レッドリボンフラッグは、11月16日～12月10日まで、神田町5丁目の交差点付近に展示しました。



〈岐阜市医師会看護学校〉

私たちは看護師を目指して岐阜市医師会看護学校で日々学んでいます。今回のレッドリボン作成にあたり、1人でも多くの人にエイズについての正しい知識を持ってもらいたいと考えました。

そして、偏見をなくし地球で暮らす全ての人がある人らしい生活を送れるようになってほしいとの願いがあります。その願いを込めて、地球全体が愛に包まれるイメージをもって今回のフラッグが完成しました。

〈厚見学園 厚見小中学校〉

厚見中学校の保健委員会の生徒がエイズやHIV、レッドリボンについて学んだ後、デザイン画を考え、生徒が色付けをしました。さらに、厚見小学校の児童がレッドリボンを作り、フラッグに付けました。小中一貫校、厚見学園としての作品です。

レッドリボン運動30周年を記念して、バラの花束がレッドリボンに温かく包まれるイメージを表現しました。

エイズで苦しんでいる人々を差別しない、誰もが平和に生きられる世界になるようにという願いを込めました。

〈岐阜市立看護専門学校〉

今の世界のHIV感染者は3770万人と推定されています。そして、AIDSやHIVに関する強い偏見を持っている人が世間にたくさんいるため、なかなか打ち明けられない方が多いのが現状です。

そんな方が一人でも減りますように、と思いを入れて、このレッドリボンフラッグを作りました。



〈岐阜保健大学 看護学部〉

学校でエイズについて学び、私たちにも何かできることはないか考えたところ、岐阜市の「レッドリボンフラッグ」という活動があり、今年で30周年を迎えるということを知りました。エイズについて、一人でも多くの人に知ってもらいたいという気持ちや、エイズで苦しむ人々への応援のメッセージをレッドリボンに込め、さらに着なくなった服を集め作品の一部にし、SDGsにも目を向けたものにしました。大切に気持ちを込めて作らせていただきました。

たくさんの人にこの作品を見てもらい、少しでも多くの人にエイズについて興味をもってもらえたかなと思っています。



〈梅林中学校〉

HIV 感染者やエイズの人たちに対して、偏見やいじめの声ではなく、この絵のように「箱」という心から、ハートのような優しく温かい応援の言葉を届けてほしいという願いを込めて作成しました。



〈岐阜聖徳学園大学附属中学校〉

世界中の一人一人がエイズのことを他人事だと思わずに、また、人種など関係なしに支えていける社会が実現してほしいという思いを込めてデザインしました。

エイズに対する差別や偏見をなくすためには、まずエイズについての関心を持ち、正しい知識や理解を持つことが大切だと思います。

レッドリボン30周年の今年、このフラッグをきっかけに、少しでも多くの人にレッドリボンとは何かや、エイズの現状などについて関心を持ってもらえたら嬉しいです。



〈岐阜大学 ピアカウンセリング同好会
シグマソサエティ〉

エイズで苦しむ人々のためにレッドリボンをシンボルとした運動が始まって30年ということで、ハート型のレッドリボンには今後もこうした運動が受け継がれ、支援の輪が広がっていくようにとの願いを込めました。

このフラッグが治療の進歩や予防の選択肢などの正しい知識を持ってもらうきっかけになれば嬉しいです。



〈済美高等学校〉

私たち一人ひとりがエイズについて正しく理解することで、エイズに対する偏見や差別をなくしていくことができる。そのような気持ちを込めて、クラスごとにレッドリボンを作成しました。

この全31クラス分のレッドリボンのように、みんなで共に支えあっていける社会になることを願っています。



〈長森南中学校〉

生徒保体委員会が中心となり、全校生徒協力のもと、レッドリボンフラッグを作成して7年目を迎えました。

今年のテーマである「レッドリボン30周年 ~Think Together Again~」に込められたレッドリボンをメインにして、エイズに偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しない、エイズについての知識を持つ、などの気持ちをレッドリボンに託しました。



〈岐阜市立女子短期大学〉

みなさんは、エイズと聞いたらどんなことを思い浮かべるでしょうか。そして、その知識は本当に正しいですか。世界には、エイズであるということに理由に、差別や偏見に苦しめられながら生きている人たちがいます。私たちは、日本だけでなく世界においても、エイズについてまだあまり正しく理解されていないと感じました。

今回、世界エイズデーの日に作品を出展するにあたって、このポスターを見た一人でも多くの人たちにエイズについて興味を持っていただきたいと思い作品を作らせていただきました。レッドリボンには、エイズに関して偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージが込められています。地球を大きなレッドリボンで包み込むことによって、エイズと共に生きる人たちが、差別や偏見に苦しめられることなく自らの人生を歩んでいけるような世の中になってほしい、また、世界中の人々がエイズという病気を理解しエイズ患者に優しく寄り添うような世界になるようにと思いを込めました。